

県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

要旨

〈今期（2024年7月時）〉

業況：全般は悪化 売上増加、販売単価上昇、仕入単価ともに上昇、採算悪化

- ・今期の業況全般 DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2024年4月時調査）に比べ▲1.4^{ポイント}の10.2と悪化したが、先行き（2024年10月時予想）は今期比+4.7^{ポイント}の14.9と改善の見通し。
- ・売上 DI は前回比+1.4^{ポイント}の10.7と増加し、先行きも今期比+1.4^{ポイント}の12.1と増加の見通し。
- ・採算 DI は前回比▲3.1^{ポイント}の▲11.9と悪化したが、先行きは今期比+7.4^{ポイント}の▲4.5と改善の見通し。
- ・販売単価 DI は前回比+3.0^{ポイント}の23.3と上昇したが、先行きは今期比▲5.5^{ポイント}の17.8と低下の見通し。
- ・仕入単価 DI は前回比+6.9^{ポイント}の48.4と上昇したが、先行きは今期比▲9.2^{ポイント}の39.2と低下の見通し。
- ・引き合い DI は前回比▲11.8^{ポイント}の1.9と減少したが、先行きは今期比+4.5^{ポイント}の6.4と増加の見通し。
- ・在庫 DI は前回比+2.9^{ポイント}の5.1と増加したが、先行きは今期比▲1.9^{ポイント}の3.2と減少の見通し。
- ・今期は売上増加、販売単価の上昇以上に仕入単価上昇により採算が悪化し業況全般は悪化した。販売単価は低下する見通しだが仕入れ単価も低下の見通しであり、業況の先行きについては改善の見通しとなった。

資金繰り・設備・雇用：資金繰りは悪化、設備不足は悪化、人手は不足が続く

- ・資金繰り DI は前回比▲2.8^{ポイント}の▲8.8と悪化したが、先行きは今期比+2.4^{ポイント}の▲6.4と改善の見通し。
- ・設備 DI は前回比▲1.7^{ポイント}の▲8.8と悪化し、先行きも今期比▲1.4^{ポイント}の▲10.2と悪化の見通し。
- ・雇用において、人員数 DI は前回比+8.1^{ポイント}の▲29.6と改善し、先行きも今期比+0.3^{ポイント}の▲29.3と改善するが、引き続き人手不足の見通し。労働時間 DI は、前回比▲0.3^{ポイント}の1.9と減少したが、先行きは今期比+2.6^{ポイント}の4.5と増加の見通し。賃金 DI は前回比+14.6^{ポイント}の49.0と増加したが、先行きは今期比▲16.9^{ポイント}の32.1と減少の見通し。

経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「人手不足・技術者不足」が51.6%と最も多く、主な対応方針は「新規採用・獲得」が37.7%であった。2番目に多かったのが「売上減少・停滞」の46.5%であり、主な対応方針は「新規取引先開拓」が35.2%であった。3番目に多かったのが「採算悪化」の42.1%であり、主な対応方針は「収益力確保」が23.3%であった。

2024年度における賃金引き上げの動向

- ・2024年度における賃金引き上げの動向として、最も多かったものは、「ベースアップの実施」が54.3%であった。2番目に多かったものは「定期昇給の実施」が25.2%であった。

賃金に関連して重視している事柄

- ・賃金に関連して重視している項目で最も多かったものは、「自社の業績」が30.0%であった。2番目に多かったものは「雇用の維持」が23.4%であった。

業況全般

業況全般 DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

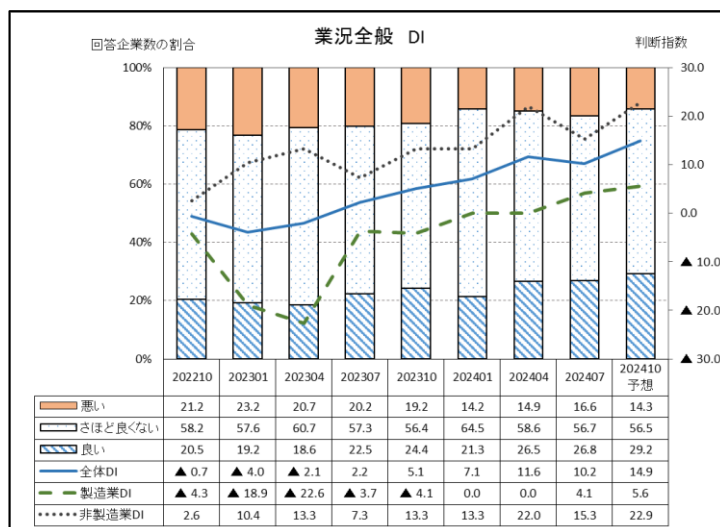
今期の業況全般 DI における全体 DI は、10.2

（前回比▲1.4^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は 4.1（同+4.1^{ポイント}）と改善し、非製造業 DI は 15.3（同▲6.7^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は 14.9（今期比+4.7^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 5.6（同+1.5^{ポイント}）と改善する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 22.9（同+7.6^{ポイント}）と改善する見通しである。



業況全般（エリア別）

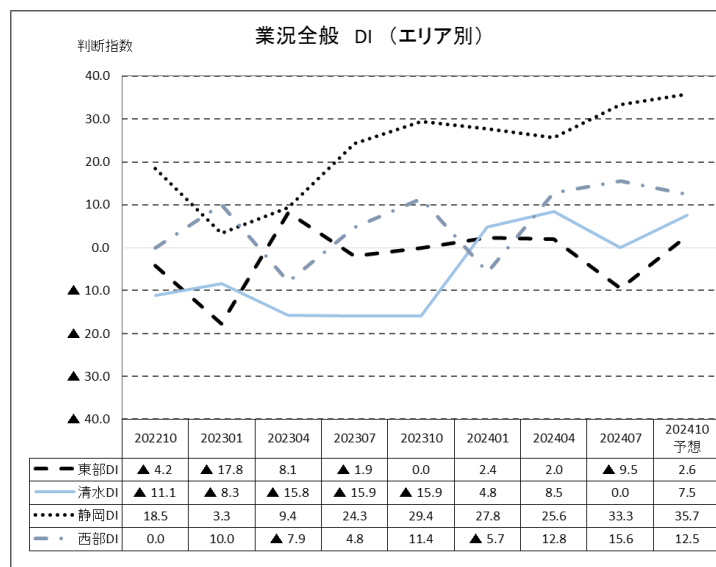
エリア別の業況全般 DI は、東部エリア、清水エリアが悪化したが、静岡エリア、西部エリアは改善した。先行きは東部エリア、清水エリア、静岡エリアは改善するが、西部エリアは悪化する見通し

今期のエリア別の業況全般 DI は、東部 DI が

▲9.5（前回比▲11.5^{ポイント}）、清水 DI が 0.0

（▲8.5^{ポイント}）と悪化したが、静岡 DI が 33.3（同+7.7^{ポイント}）、西部 DI が 15.6（同+2.8^{ポイント}）と改善した。

また、先行きについては、東部エリア、清水エリア、静岡エリアは改善する見通しであり、西部エリアは悪化する見通しである。



売上

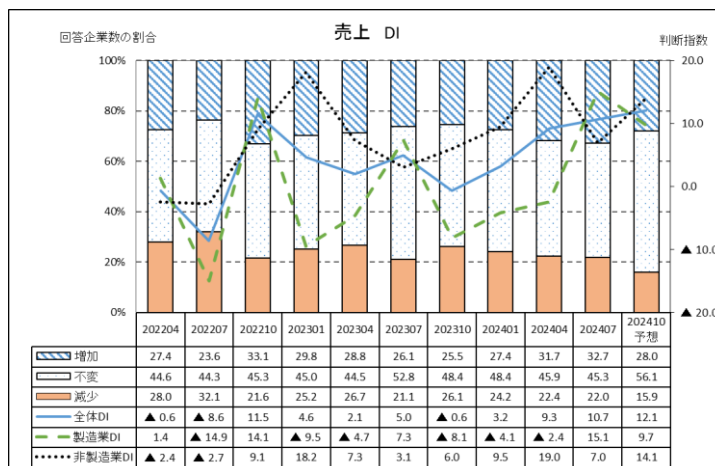
売上 DI は前回に比べ増加し、先行きも増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は、10.7（前回比+1.4^{ポイント}）と増加した。

製造業 DI は 15.1（同+17.5^{ポイント}）と増加したが、非製造業 DI は 7.0（同▲12.0^{ポイント}）と減少した。

先行きでは、全体 DI は 12.1（今期比+1.4^{ポイント}）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 9.7（同▲5.4^{ポイント}）と減少する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 14.1（同+7.1^{ポイント}）と増加する見通しである。



採算

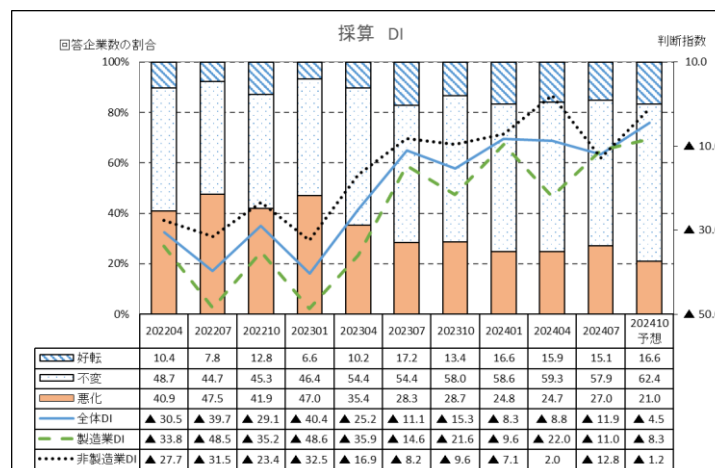
採算 DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の採算 DI における全体 DI は、▲11.9（前回比▲3.1^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は▲11.0（同+11.0^{ポイント}）と改善したが、非製造業 DI は▲12.8（同▲14.8^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲4.5（今期比+7.4^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲8.3（同+2.7^{ポイント}）と改善する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲1.2（同+11.6^{ポイント}）と悪化する見通しである。



販売単価

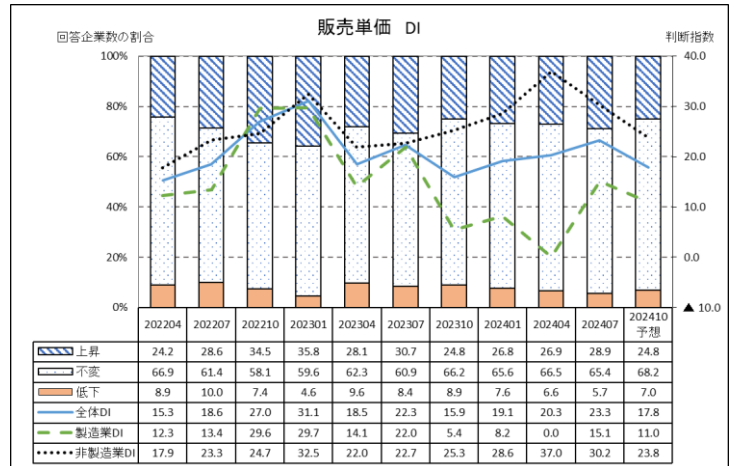
販売単価 DI は前回に比べ上昇したが、先行きは低下の見通し

今期の販売単価 DI における全体 DI は、23.3（前回比+3.0^{ポイント}）と上昇した。

製造業 DI は 15.1（同+15.1^{ポイント}）と上昇したが、非製造業 DI は 30.2（同▲6.8^{ポイント}）と低下した。

先行きでは、全体 DI は 17.8（今期比▲5.5^{ポイント}）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 11.0（同▲4.1^{ポイント}）と低下する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 23.8（同▲6.4^{ポイント}）と低下する見通しである。



仕入単価

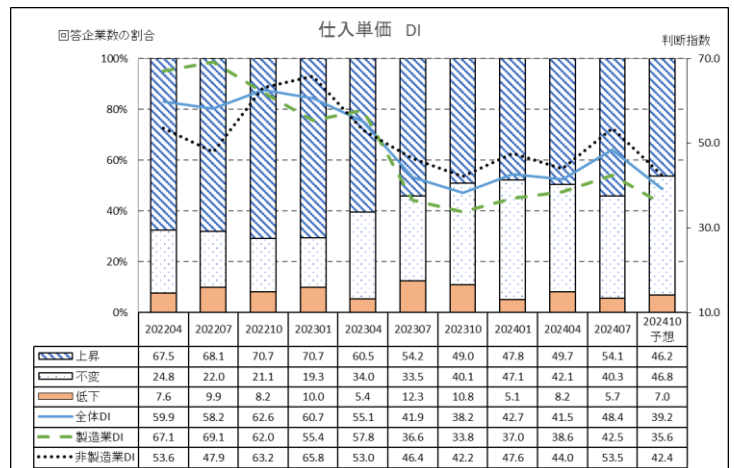
仕入単価 DI は前回に比べ上昇したが、先行きは低下する見通し

今期の仕入単価 DI における全体 DI は、48.4（前回比+6.9^{ポイント}）と上昇した。

製造業 DI は 42.5（同+3.9^{ポイント}）と上昇し、非製造業 DI も 53.5（同+9.5^{ポイント}）と上昇した。

先行きでは、全体 DI は 39.2（今期比▲9.2^{ポイント}）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 35.6（同▲6.9^{ポイント}）と低下する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 42.4（同▲11.1^{ポイント}）と低下する見通しである。



引き合い

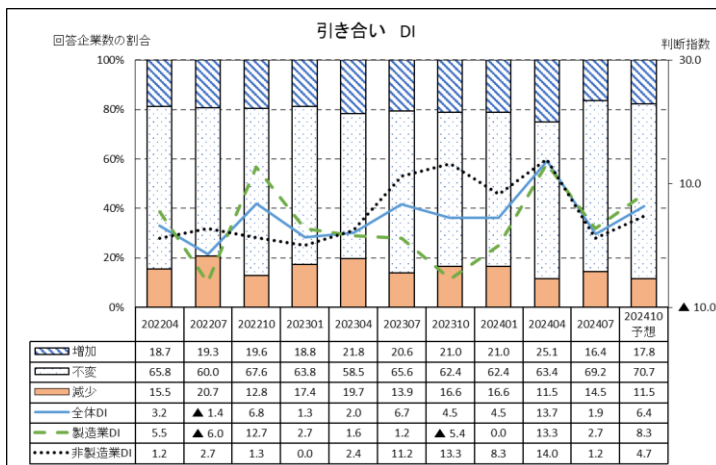
引き合い DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の引き合い DI における全体 DI は、1.9（前回比▲11.8^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は 2.7（同▲10.6^{ポイント}）と減少し、非製造業 DI も 1.2（同▲12.8^{ポイント}）と減少した。

先行きでは、全体 DI は 6.4（今期比+4.5^{ポイント}）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 8.3（同+5.6^{ポイント}）と増加する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 4.7（同+3.5^{ポイント}）と増加する見通しである。



在庫

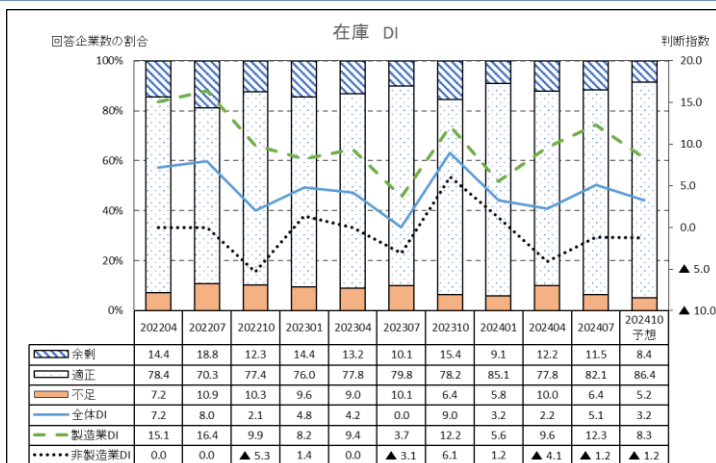
在庫 DI は前回に比べ増加したが、先行きは減少の見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は、5.1（前回比+2.9^{ポイント}）と増加した。

製造業 DI は 12.3（同+2.7^{ポイント}）と増加し、非製造業 DI も ▲1.2（同+2.9^{ポイント}）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 3.2（今期比▲1.9^{ポイント}）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは 8.3（同▲4.0^{ポイント}）と減少し、非製造業 DI の先行きは ▲1.2（同±0.0^{ポイント}）と同水準の見通しである。



資金繰り

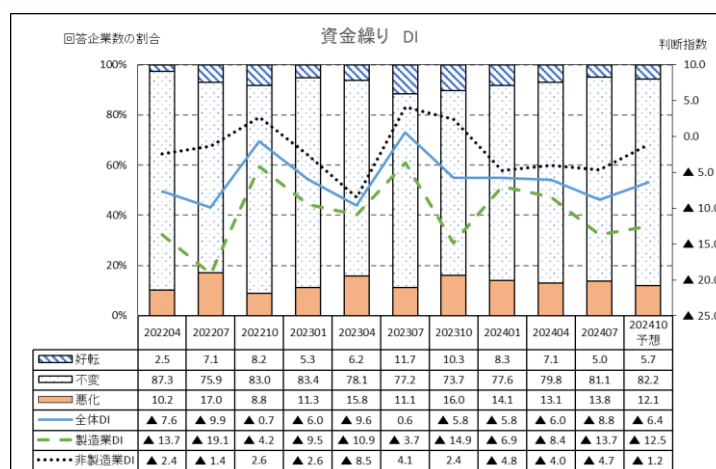
資金繰り DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は、▲8.8（前回比▲2.8^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は ▲13.7（同▲5.3^{ポイント}）と悪化し、非製造業 DI も ▲4.7（同▲0.7^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は ▲6.4（今期比+2.4^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは ▲12.5（同+1.2^{ポイント}）と改善する見通しであり、非製造業 DI の先行きも ▲1.2（同+3.5^{ポイント}）と改善する見通しである。



設備

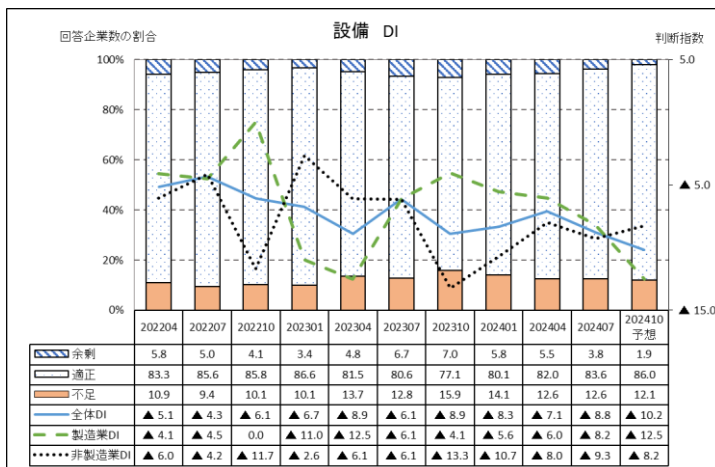
設備 DI は前回に比べ悪化し、先行きも悪化の見通し

今期の設備 DI における全体 DI は、▲8.8（前回比▲1.7^{ポイント}）と悪化し、設備不足の状態が続く。

製造業 DI は▲8.2（同▲2.2^{ポイント}）と悪化し、非製造業 DI も▲9.3（同▲1.3^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲10.2（今期比▲1.4^{ポイント}）と悪化する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲12.5（同▲4.3^{ポイント}）と悪化する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲8.2（同+1.1^{ポイント}）と改善する見通しである。

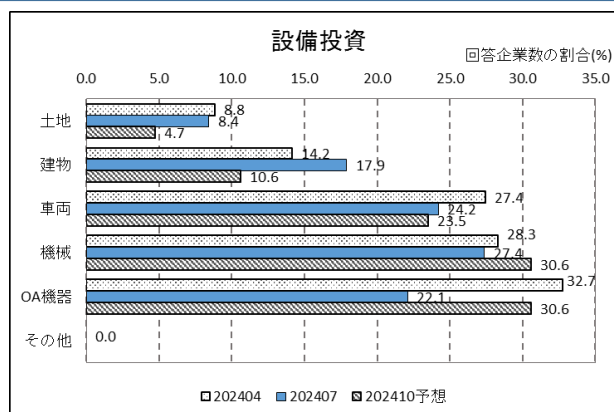


設備投資（複数回答可）

設備投資については、先行きも機械、OA 機器、車両が主流

今期の設備投資の状況は、機械 27.4%、車両 24.2%、OA 機器 22.1%、建物 17.9%、土地 8.4%であった（その他は回答なし）。

先行きでは、機械と OA 機器がいずれも 30.6%、車両 23.5%、建物 10.6%、土地 4.7%に設備投資する見通しである（その他は回答なし）。



投資意欲

「やや積極的」が 25.7%と増加し、「積極的」が 5.4%、「変わらず」が 51.4%、「やや消極的」が 8.8%、「消極的」が 8.8%と減少した

今期の投資意欲の状況は、

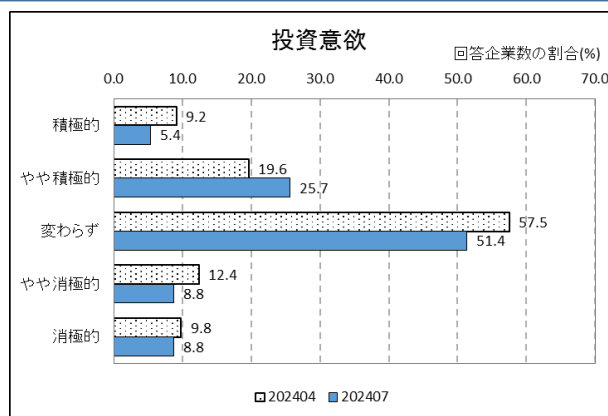
「積極的」5.4%（前回比▲3.8^{ポイント}）、

「やや積極的」25.7%（同+6.1^{ポイント}）、

「変わらず」51.4%（同▲6.1^{ポイント}）、

「やや消極的」8.8%（同▲3.6^{ポイント}）、

「消極的」8.8%（同▲1.0^{ポイント}）であった。



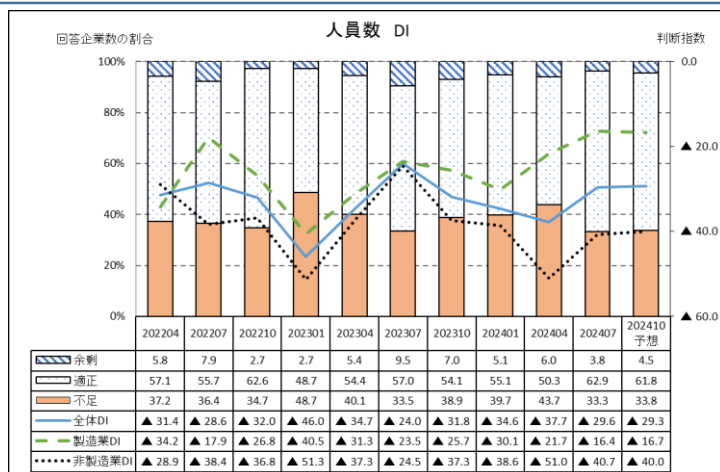
人員数

人員数 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善の見通し

今期の人員数 DI における全体 DI は、▲29.6（前回比+8.1^{ポイント}）と、人手不足の状態が改善した。製造業 DI は▲16.4（同+5.3^{ポイント}）と改善し、非製造業 DI も▲40.7（同+10.3^{ポイント}）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲29.3（今期比+0.3^{ポイント}）と改善するが、人手不足は続く見通しである。

製造業 DI の先行きは▲16.7（同▲0.3^{ポイント}）と悪化する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲40.0（同+0.7^{ポイント}）と改善する見通しである。



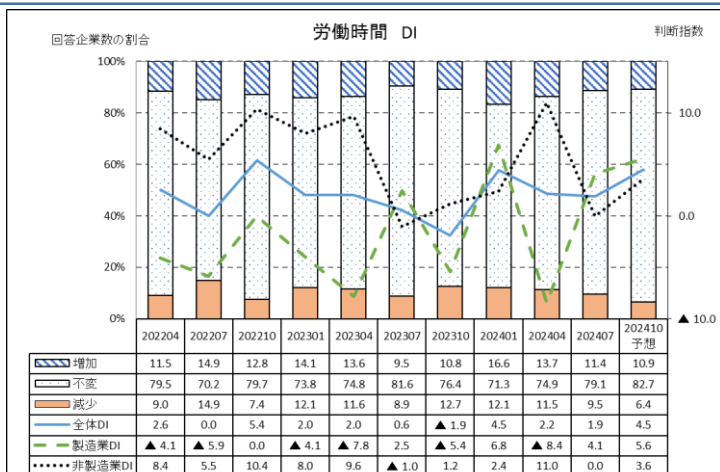
労働時間

労働時間 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の労働時間 DI における全体 DI は、1.9（前回比▲0.3^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は 4.1（同+12.5^{ポイント}）と増加したが、非製造業 DI は 0.0（同▲11.0^{ポイント}）と減少した。先行きでは、全体 DI は 4.5（今期比+2.6^{ポイント}）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 5.6（同+1.5^{ポイント}）と増加する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 3.6（同+3.6^{ポイント}）と増加する見通しである。



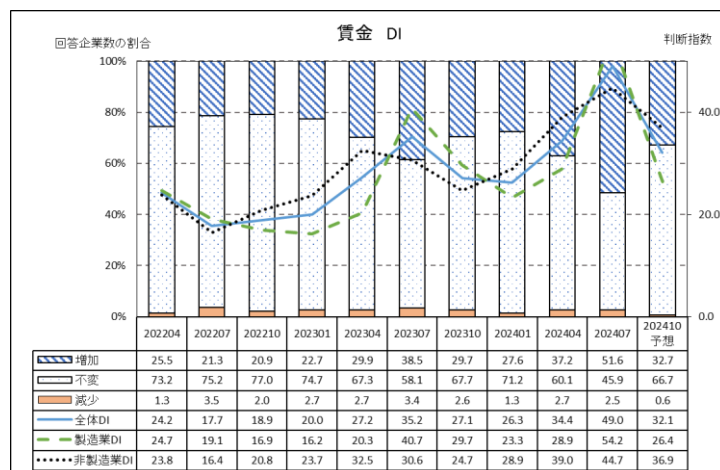
賃金

賃金 DI は前回に比べ増加したが、先行きは減少の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は、49.0（前回比+14.6^{ポイント}）と増加した。

製造業 DI は 54.2（同+25.3^{ポイント}）と増加し、非製造業 DI も 44.7（同+5.7^{ポイント}）と増加した。先行きでは、全体 DI は 32.1（今期比▲16.9^{ポイント}）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは 26.4（同▲27.8^{ポイント}）と減少する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 36.9（同▲7.8^{ポイント}）と減少する見通しである。



経営上の課題（２つまで選択） 課題に対する対応方針（複数回答可）

経営上の課題として最も多かったものは「人手不足・技術者不足」が51.6%であった。その課題に対する対応方針として「新規採用・獲得」が37.7%、「人材育成・教育の充実」が20.1%、「外国人の採用」が15.7%、「女性の業務範囲の拡大」が12.6%であった。

２番目に多かったものは「売上減少・停滞」が46.5%であり、対応方針として「新規取引先開拓」が35.2%、「新規事業の取組み・M&A（買）の検討」が8.2%、「販売強化のための増員」が7.5%であった。

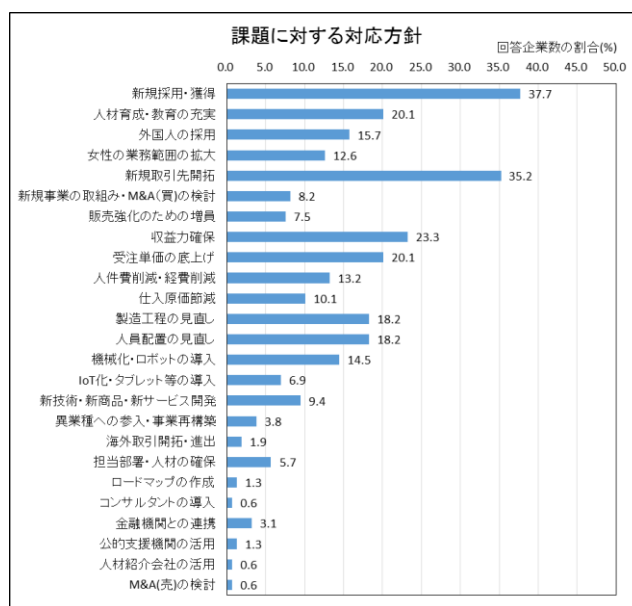
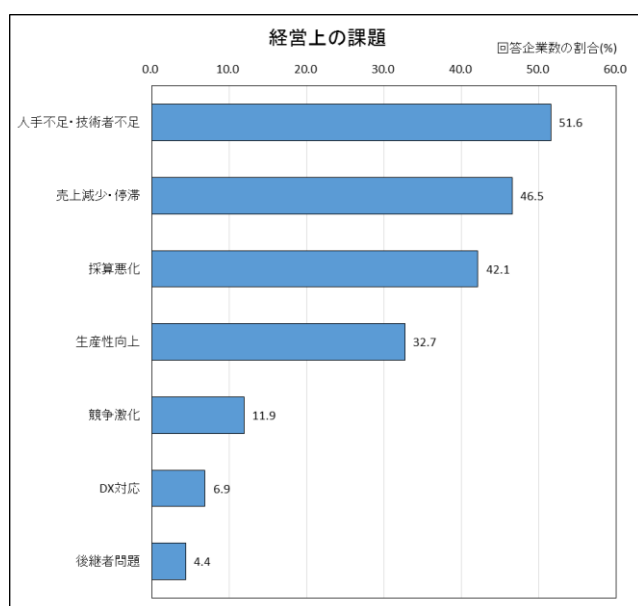
「採算悪化」は42.1%であり、対応方針として「収益力確保」が23.3%、「受注単価の底上げ」が20.1%、「人件費削減・経費削減」が13.2%、「仕入原価節減」が10.1%であった。

「生産性向上」は32.7%であり、対応方針として「製造工程の見直し」「人員配置の見直し」がいずれも18.2%、「機械化・ロボットの導入」が14.5%、「IoT化・タブレット等の導入」が6.9%であった。

「競争激化」は11.9%であり、対応方針として「新技術・新商品・新サービス開発」が9.4%、「異業種への参入・事業再構築」が3.8%、「海外取引開拓・進出」が1.9%であった。

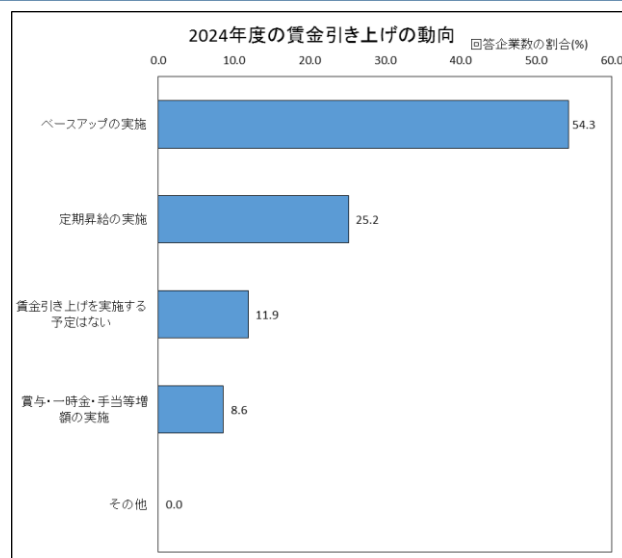
「DX対応」は6.9%であり、対応方針として「担当部署・人材の確保」が5.7%、「ロードマップの作成」が1.3%、「コンサルタントの導入」が0.6%であった。

「後継者問題」は4.4%であり、対応方針として「金融機関との連携」が3.1%、「公的支援機関の活用」が1.3%、「人材紹介会社の活用」「M&A（売）の検討」がいずれも0.6%であった。



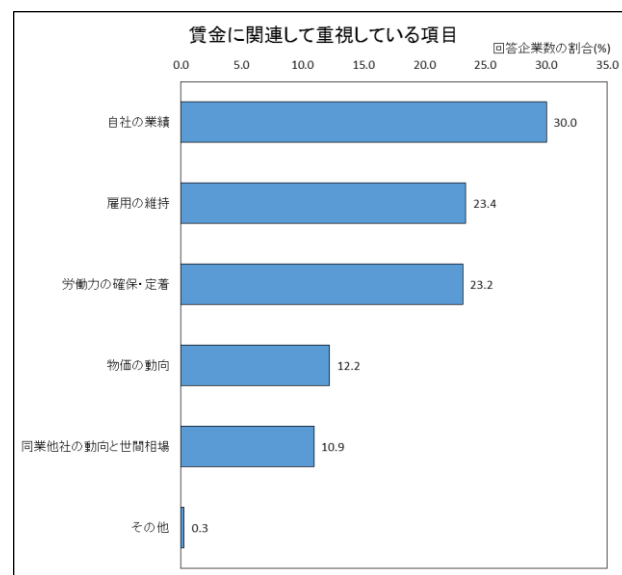
2024 年度における賃金引き上げの動向（複数回答可）

2024 年度における賃金引き上げの動向として、最も多かったものは、「ベースアップの実施」が 54.3%であった。2 番目に多かったものは「定期昇給の実施」が 25.2%であった。次いで「賃金引き上げを実施する予定はない」は 11.9%、「賞与・一時金・手当等増額の実施」が 8.6%であり、「その他」とした回答はなかった。



賃金に関連して重視している事柄（複数回答可）

賃金に関連して重視している項目で最も多かったものは、「自社の業績」が 30.0%であった。2 番目に多かったものは「雇用の維持」が 23.4%であり、以下、「労働力の確保・定着」が 23.2%、「物価の動向」が 12.2%、「同業他社の動向と世間相場」が 10.9%、「その他」が 0.3%であった。



特徴的なコメント

業種	業況全般（現状）	業況全般（先行き）
飲食料品製造業	仕入れ・販売価格ともに上昇し消費減少	仕入れは高騰、販売は縮小の予想
木材・木製品製造業	大手取引先よりの受注が改善した	大手取引先の生産計画では、受注拡大を見込む
パルプ・紙・紙加工品製造業	業界全体での価格修正が一段落し、値上げ前の駆け込み需要の反動により売り上げが停滞している	業界全体の売り上げ停滞による価格の引き戻しが懸念される
金属製品製造業	同業者が淘汰され徐々に売り手市場になりつつある	先行きは明るさもあるが急変する場合があります何とも言えない
金属製品製造業	大手企業は業績改善がなされているが、中小企業はなお先行き不安があり現状維持の状態である	円安が続く仕入れ価格の高騰が収まらない中で価格転嫁が出来ずに厳しい状態は変わらない見通し
一般機械器具製造業	主力商品がここ数か月売れていないが、それ以外の商品の大口受注があり、何とか維持できている	コロナ融資の返済が負担になり設備投資をする余力のない取引先が増加しており売上減少を見込む
一般機械器具製造業	引き合いはあるが、電線など一部不足が続いており確保が大変である	電線の高騰により見積りより価格変動があっても価格変更ができず電材費が赤字となる見通し
自動車・同部品製造業	製品によってばらつきがあるが、全体的には良好原料を中心に仕入単価はまだまだ上昇が続く見込み	既存品は生産が微減になる可能性があるが、新製品が動き出すため全体的にはいくらか上昇する見込み
建設業	利益率の低下が業績に大きく影響している	国交省の指導により11月から手形サイトを短縮することが資金繰りに与える影響を懸念している
不動産業	今年の春から夏にかけては変化が少ない	売上見通しとして、清水区の住宅の需要の落込みが顕著となると思われる
卸・小売業	新車の製造が遅れている、もしくは生産停止が響き、在庫が不足している	ダイハツをはじめ生産が戻る兆しはあるが、しばらくは変わらない見込み
卸・小売業	暑さや大雨等により外出を控える人が多く、それに伴う売上減と税支払いなどにより資金繰りも悪化	客単価の落込みにより厳しい状況が続く見通し 県外、県西部の顧客は不変だが、県中部の顧客の購買意欲は低い
物流・運輸業	新規業務の引き合いがあるも設備不足	6月より運賃引き上げがあり収支改善見込み
医療・福祉	待機入院患者数は多い状態が続いている ベットコントロールがやや難しい	費用増加により採算と資金繰りは厳しい
その他サービス業	物価高の影響が仕入れの大きな負担になっている	猛暑、オリンピック開催等の影響で集客がやや落ちる懸念はあるが、夏休みにはファミリー層を中心に一定の集客を期待している

業種	雇用（現状）	雇用（先行き）
飲食料品製造業	外国人実習生に期待	働き方改革で休日が増加しその分不足する人材を採用する
木材・木製品製造業	業容拡大に伴い若干の人員不足 賃金面ではベースアップ、定期昇給を実施した	派遣社員の採用等により適正人員にもっていく
パルプ・紙・紙加工品製造業	昇給は7月に予定 採用は相変わらず厳しい	昇給により賃金はアップ 採用は厳しい見通し
金属製品製造業	AI利用の流れが強まり人材は余る傾向になる。	新卒・中途ともに採用活動に注力
一般機械器具製造業	物価高騰の為、社員のモチベーションアップと新規採用を行うために大幅なベースアップを実施	引き続き求人募集を行い若手社員を採用して若返りを図っていきたい
自動車・同部品製造業	検査部門で初めて女性を採用	日本人の不足を外国人で補う見通し
建設業	技術者を中心に不足状況に変わりはない	人員は増加見込みなるも不足状況に変わりはない
卸・小売業	若い母親の子どもとの休日を増やすためにパートタイマーを増員した	従業員数は適正だが最低賃金を保つ事が厳しい
物流・運輸業	ドライバー不足の懸念がある	作業員の増員を計画しているが苦戦している
医療・福祉	職員の定着が課題である	採用は欠員補充のみとしているが、紹介会社への職員紹介料負担が高額で厳しい
その他サービス業	募集しても応募が少ない	最低賃金の上昇が予想され、秋に契約社員を中心に時給の引上げを実施する可能性がある

調査の概要

調査時点：2024年7月1日～7月12日

調査方法：郵送による記名アンケート方式

及びWEBによる回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 220 社

回答企業：159 社

回答率：72.3%

コード番号	業種名	先数
11	飲食料品製造業	11
12	木材・木製品製造業	6
13	パルプ・紙・紙加工品製造業	9
14	化学工業	1
15	金属製品製造業	16
16	一般機械器具製造業	12
17	自動車・同部品製造業	13
18	その他製造業	5
21	建設業	17
22	不動産業	7
31	卸・小売業	17
41	物流・運輸業	13
51	医療・福祉	18
52	その他サービス業	14
	計	159

株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2024年7月24日

〒424-0941 静岡県静岡市清水区富士見町2番1号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011 E-mail smz-center@smz-kenkyu.jp 杉山・福井